

4. 品質管理目標

1) 施工条件の確認

a. 塗装工程間隔の遵守

前工程の塗膜が未乾燥あるいは未硬化の状態ですらに塗り重ねていくと、膨れや剥離等を招くことがある。また材料によっては、極端に長い工程間隔をとることも塗膜の劣化を招いて密着不良を起こし、膨れや剥離の原因となることがあるので適切な工程を組む。

b. 標準塗付量の遵守

標準塗付量より少ない状態での施工は、アクや色ムラ発生の原因となるので注意して施工する。

c. 足場陰のムラの防止

足場板の陰の部分は、足場ムラが出やすいので細心の注意を払い、足場をはずす前には必ず検査をしてムラがある場合は補修を行う。

複層塗材においては、足場ムラは上塗りよりも主材のパターンムラによる場合が多いので、原因を見極めた上で補修をする。

2) 養生

a. 養生は施工面以外の汚れ防止のため入念に行う。

b. 望ましくは捨てテープ法を用い、テープは塗装乾燥後緩やかに取り除く。

c. 養生材はポリフィルム、クラフト紙、新聞紙等を養生専用の粘着テープにて接着して使用する。テープの不要な粘着材付の養生材も併用する。

d. テープを貼るときは蛇行しないように注意し、風や養生材の重みで簡単に剥がれないようにする。

e. 万一、施工面以外を汚してしまった場合は、乾燥する前に迅速に拭き取る。乾燥後に汚れが見つかった場合は、お湯や材料に応じた稀釈剤を用いて除去するが、溶剤を使用する場合は、下地が傷まないことを確認してから行う。特に、反応硬化形の材料は硬化してからでは除去しにくいいため、早めに対処する。

3) 材料の保管

a. 雨水の混入による粘度低下や分離、固化を防止するため、材料を野積みしない。

b. 水溶性の材料は、凍結による変質を防ぐため5℃以下になる場所には保管しない。

c. 溶剤系の材料であっても、粘度増大や固化によって攪拌や施工が困難になることもあるので、5℃以下での保管は避ける。

d. 溶剤系の材料は火気の心配のない場所に保管する。

e. 袋物は雨水がかからず湿気の少ないところで保管し、直接地面に置くことは避ける。